

Press Release

2020年7月10日

開館記念 春夏プログラム Thank You Memory ー醸造から創造へー

会期：2020年6月1日（月） - 9月22日（火・祝） ※会期変更しました

参加アーティスト：

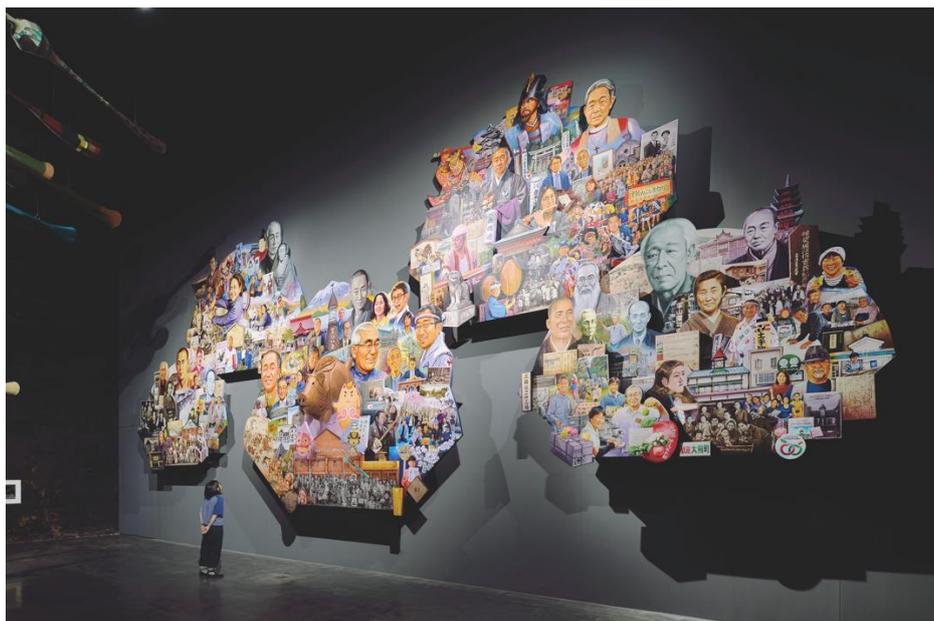
尹秀珍（イン・シウジェン）、ジャン＝ミシェル・オトニエル、笹本晃、奈良美智、畠山直哉、藤井光、
ナウイン・ラワンチャイクン、潘逸舟（ハン・イシュ） [弘前エクステンジ]

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に酒造工場として建設され、国内で初めて大々的にシードルを製造するなど、約100年の歴史を刻んできた煉瓦倉庫を改修し、再生された新しい美術館です。

美術館（ミュージアム）の語源は、古代ギリシャ神話に登場する記憶の女神の娘である学問・芸術の女神たちの神殿の名前に由来します。つまり、記憶と芸術は不可分であり、美術館は過去、現在、そして未来へ繋がる「記憶」をめぐる装置とも捉えられるでしょう。

開館を記念する本展では、場所と建物の「記憶」に焦点をあて、煉瓦倉庫や弘前の歴史に新たな息吹を吹き込む8名のアーティストによる新作を中心に紹介します。改修工事の記録にもとづく作品や、弘前市民の協力により制作された作品など、この場所ならではの作品が、煉瓦倉庫のダイナミックな空間で展開されます。また2006年に煉瓦倉庫で開催された「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展をサポートした、地域のボランティアの方々への感謝の気持ちとして贈られた、奈良美智《A to Z Memorial Dog》が再展示されるほか、煉瓦倉庫の歴史的資料も展示されます。さらには建築家、グラフィック・デザイナー、アーティスト、そして美術館が協働して作り上げた作品や展示構成のほか、弘前ゆかりのアーティストらに注目し、作り手と地域の人々の出会いや異なる視点が交差・交換される場を通して新たなアプローチで地域の創造的魅力的再発見に繋げるプロジェクト「弘前エクステンジ」も見どころのひとつです。

「醸造」の場から「創造」の場へー本展によって、場所の記憶が未来へ継承されること、そして記憶をめぐる装置としての美術館が起動し、広くアーティストや市民が集まることで、未来の記憶がつくられていくことを目指します。



ナウイン・ラワンチャイクン 《いのっちへの手紙》2020年

Photo: Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

展覧会のみどころ

1. ダイナミックな建築に共振する作品群が新たな空間体験を創出

酒造工場時代の名残を感じさせる、煉瓦倉庫のダイナミックな建築空間を活かした展示を体験できます。畠山直哉は建物の改修過程を記録した写真を館内各所で展示するほか、笹本晃は煉瓦倉庫の建具や資材を取り入れたインスタレーション作品を発表。

2. 弘前の歴史や人々との対話を通して制作した新作を発表

アーティストたちは弘前を訪れ、地域や煉瓦倉庫を取材し、この場所のための「サイト・スペシフィック」な新作に挑みました。タイ出身のナウィン・ラワンチャイクンは、30人以上の市民に対して重ねたインタビューをもとに大型絵画と映像作品を発表。また中国出身の尹秀珍（イン・シウジェン）は、市民から提供を受けた100着におよぶ古着を素材に、弘前のまちをモチーフにした立体作品を展示します。

3. 弘前出身のアーティスト・奈良美智《A to Z Memorial Dog》の再展示

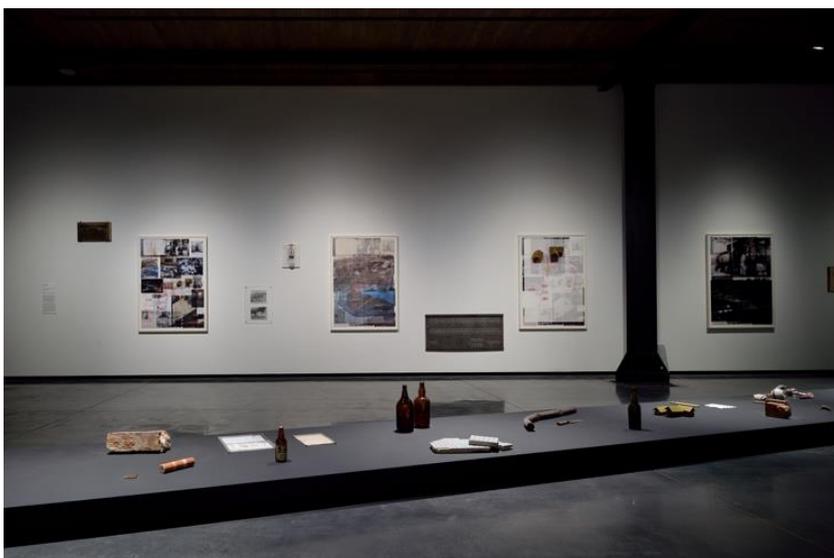
2006年、改修前の煉瓦倉庫で開催され、8万人近くの来場者を集めた「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展。その展覧会に関わった地域の人々のために弘前出身のアーティスト奈良美智が制作し、それ以来、煉瓦倉庫のシンボルとして広く愛されてきた《A to Z Memorial Dog》が、建物の改修を終えて約2年ぶりに再展示されました。

4. アーティストとグラフィック・デザイナーのコラボレーション

写真家の畠山直哉とロゴデザインを手がけた服部一成が協働し、煉瓦倉庫の歴史に関するポスター作品を発表。

5. 異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出す「弘前エクスチェンジ」プログラム

小学校から高校まで弘前に住みアーティスト活動を始めた潘逸舟が、市民とのワークショップなど様々な「交流」、「交換」を通して作品制作を行います。



展示風景

Photo: Naoya Hatakeyama

長期展示

○奈良美智 / NARA Yoshitomo

「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展（2006年）をサポートした地域のボランティアの方々への感謝の気持ちとして贈られた《A to Z Memorial Dog》の再展示です。美術館エントランスに長期展示され、来館者を迎えます。



《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara
Photo: Naoya Hatakeyama

○ジャン＝ミシェル・オトニエル /

Jean-Michel OTHONIEL

弘前の特産品であるりんごにインスピレーションを受けたガラスの彫刻作品とドローイングを展示します。直径2メートルにおよぶ大型の作品が、煉瓦づくりの空間を鮮やかに彩ります。



《The Knot of Eden》
(Simulation from the artist studio) ©Othoniel Studio

新作3点のうち2点を展示しています。
上記シミュレーション画像にあたる大型作品は、新型コロナウイルスの影響により展示設営が遅延しており、現在は代替作品を展示しています。[7月10日現在]

展示室 1

酒造やシードル工場時代の面影を残す資料や品々とともに建物の歴史をたどりながら、煉瓦倉庫が美術館へと生まれ変わる時間の流れを紹介します。

○畠山直哉 / HATAKEYAMA Naoya

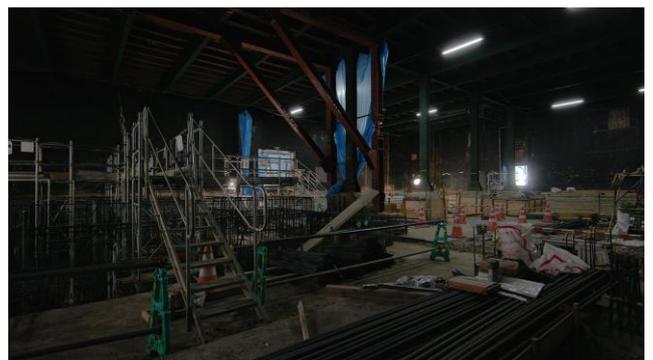
着工前から約2年をかけて撮影された、煉瓦倉庫の改修工事の過程を追った写真作品を展示します。また、煉瓦倉庫の100年に及ぶ歴史を取材したポスター作品も新たに発表します。



畠山直哉×服部一成《Thank You Memory》2020年
Photo: Naoya Hatakeyama

○藤井光 / FUJII Hikaru

煉瓦倉庫が美術館へと生まれ変わる改修工事の過程を記録した映像作品を発表。建物の過去と現在の空間が呼応する新作展示です。



《建築 2020年》2020年 ©Hikaru Fujii

展示室 2

○笹本晃 / SASAMOTO Aki

煉瓦倉庫のダイナミックな建築空間に合わせて、旧倉庫に残された古い建具や資材を取り入れたインスタレーション作品を展示しています。



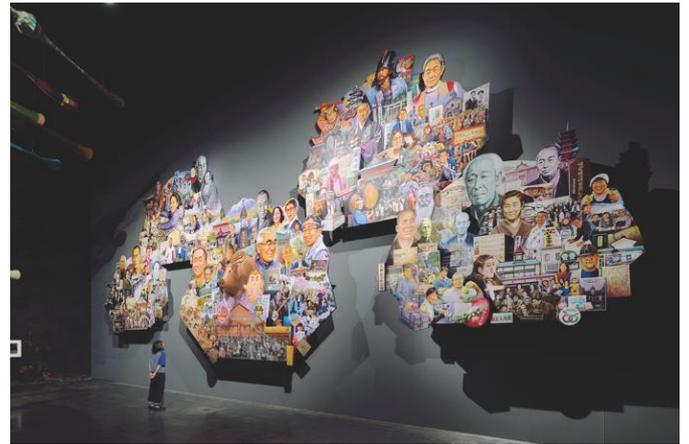
《スピリッツの3乗》（部分）2020年 ©Aki Sasamoto
Photo: Naoya Hatakeyama

展示室 3

○ナウイン・ラワンチャイクン /

Navin RAWANCHAIKUL

30人以上の弘前市民へのインタビューをもとに制作された《いのちへの手紙》と題された、幅約13メートルの5枚組大型絵画と映像作品、手紙を発表。弘前や煉瓦倉庫の歴史、文化を感じさせる新作です。

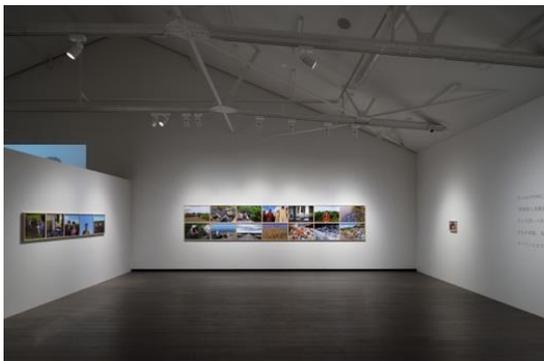


《いのちへの手紙》2020年
Photo: Naoya Hatakeyama

展示室 4

○奈良美智 / NARA Yoshitomo

自身のルーツを辿る旅先での出会いを収めた近年意欲的に取り組んでいる写真作品を展示しています。



左：《SAKHALIN》2014年 ©Yoshitomo Nara, 2014
右：《SAKHALIN》2014-2018年 展示風景
©Yoshitomo Nara Photo: Naoya Hatakeyama

○潘逸舟（ハン・イシュ） / HAN Ishu

〔弘前エクステンジ〕

高校卒業まで弘前で過ごした潘が、弘前で発表した最初の作品やその後の代表作を展示しています。本会期中には「弘前エクステンジ」のプロジェクトとして、ウェブサイト上での展開やワークショップ、イベント等を予定しています。詳細は決まり次第、ウェブサイトやSNSで発表します。



《海で考える人》2016年
©Ishu Han
Photo: Naoya Hatakeyama

展示室 5

○尹秀珍（イン・シウジェン） / YIN Xiuzhen

弘前の市民から提供してもらった100着におよぶ古着をもとに、尹の代表作である《ポータブル・シティ》の弘前ヴァージョンを制作しました。そのほか、天井高を活かしたダイナミックな空間にあわせて、古着を用いた過去の代表作も展示。



《ポータブル・シティ：弘前》2020年 ©Yin Xiuzhen
Photo: Naoya Hatakeyama

[弘前エクステンジ]

弘前れんが倉庫美術館では年間を通じて「弘前エクステンジ」プロジェクトを開催します。

弘前出身や所縁のアーティスト、地域の歴史や伝統文化に新たな息吹を吹き込むクリエイターや研究者らとともに、展示やワークショップ、トークなど様々な企画を展開します。

「エクステンジ=交換」という名前に込められたように、本プロジェクトはローカル（地域）とグローバル（世界）、作り手と地域の人々そして鑑賞者といった異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、地域の創造的魅力的再発見や発信に繋がることを目指します。

【アーティスト紹介】



｜尹秀珍（イン・シウジェン） / YIN Xiuzhen

1963年、中国 / 北京生まれ、同地在住。

古着や中古品などを使い、近代化や都市化の中で消滅していく個人的な記憶をすくいあげるような立体作品を制作している。2010年には、ニューヨーク近代美術館にて中国人女性作家として初の個展を開催した。



｜ジャン＝ミシェル・オトニエル / Jean-Michel OTHONIEL

1964年、フランス / サン＝テティエンヌ生まれ、パリ在住。

1990年代初頭より、変容、昇華、変異などの現象に関心を寄せながら、可逆性の素材を用いた作品を制作している。特にムラーノガラス等を用いた、展示環境と調和する数々の大型彫刻作品で世界的に知られる。

Photo: Philippe Chancel



｜笹本晃 / SASAMOTO Aki

1980年、神奈川県横浜市生まれ、ニューヨーク在住。

空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンスや、言葉、モノを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品を中心に、彫刻やインスタレーションを発表している。

Photo: Kazuko Fukunaga



｜奈良美智 / NARA Yoshitomo

1959年、青森県弘前市生まれ。

1990年代半ば以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジアの各地で、規模にかかわらず様々な場所で展示発表を続ける。見つめ返すような印象的な絵画、日々自由に描き続けるドローイング作品のほか、木、FRP、陶、ブロンズ、そしてインスタレーションなど多様な素材を用い、空間に生命を吹き込むような彫刻作品を制作している。

© Yoshitomo Nara



｜島山直哉 / HATAKEYAMA Naoya

1958年、岩手県陸前高田市生まれ、東京都在住。

写真家。デビュー時から一貫して、自然・都市・写真術という三つの関係性に主眼を置いた作品を制作している。深い思考とリサーチのもとに撮影される静謐な作品は、文学や思想などの言語表現に共通するものを感じさせる。



｜藤井光 / FUJII Hikaru

1976年、東京都生まれ、同地在住。

歴史的事象を題材に、社会の不可視な領域を構造的に批評する作品を、主に映像インスタレーションとして発表している。寡黙な事物たちに語り出させるその映像手腕は世界的に高く評価されている。



｜ナウィン・ラワンチャイクン / Navin RAWANCHAIKUL

1971年、タイ / チェンマイ生まれ、チェンマイ及び福岡県在住。

インド系タイ人という自身のアイデンティティの問題から、コミュニティに根ざしたプロジェクトや作品制作を行う。人々との交流から生きる喜びを見出し、コミュニティに内在する多様性を絵画や映像で表現する。



｜潘逸舟（ハン・イシュ） / HAN Ishu [弘前エクステンジ]

1987年、中国 / 上海生まれ、東京都在住。

社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。

開催概要

- | プログラム名： 弘前れんが倉庫美術館 開館記念 春夏プログラム
Thank You Memory —醸造から創造へ—
- | 会期： 2020年6月1日(月) - 9月22日(火・祝)
- | 開館時間： 9:00 - 17:00 (入館は閉館の30分前まで)
- | 休館日： 火曜日 (祝日の場合は翌日に振替)
- | 観覧料： 一般 1,300円 (1,200円) 大学生・専門学校生 1,000円 (900円)
※ () 内は20名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満65歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方1名
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 特別協賛： スターツコーポレーション株式会社、株式会社大林組
- | 協賛： 株式会社アップルコミュニケーションズ、株式会社NTTファシリティーズ、
やまと印刷株式会社
- | 後援： 東奥日報社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、NHK青森放送局、
エフエム青森、FMアップルウェーブ、弘前市教育委員会
- | ゲスト・キュレーター： 三木あき子
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1
- | 一般問合せ： TEL: 0172-32-8950
- | アクセス： JR弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環100円バス「中土手町」下車 徒歩約4分
- 徒歩約20分
- タクシー約7分
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS： Instagram : @hirosaki_moca Twitter : @hirosaki_moca Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川(公)

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

FAX:0172-55-5982 または E-MAIL press@hirosaki-moca.jp

2020年7月10日

弘前れんが倉庫美術館 (青森県弘前市)

Thank You Memory ー醸造から創造へー

会期：2020年6月1日(月) - 9月22日(火・祝)

広報画像貸出書

▼貴媒体についてお知らせください。

媒体名	貴社名	
ご担当者	所属部署	
ご住所 〒		
電話番号	FAX 番号	E-MAIL

掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。

読者プレゼントのご希望 希望する 組 名様 (2020年7月31日迄 掲載対象) 希望しない
*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担の案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

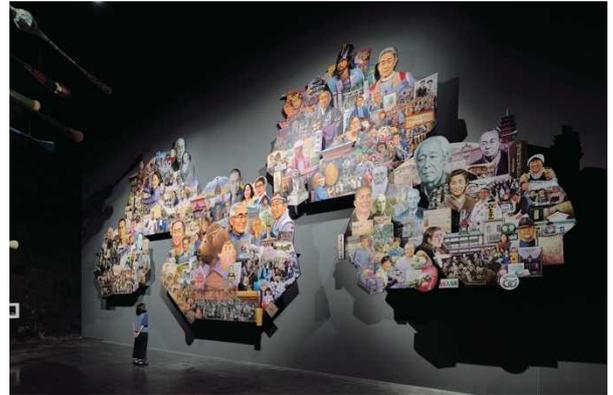
[1]



[2]



[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



[8]



広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

- [1] 畠山直哉×服部一成《Thank You Memory》 2020年 Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [2] 笹本晃《スピリッツの3乗》（部分）2020年 ©Aki Sasamoto Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [3] ナウイン・ラワンチャイクン《いのちへの手紙》2020年 Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [4] 藤井光《建築 2020年》2020年 ©Hikaru Fujii
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [5] 尹秀珍《ポータブル・シティ：弘前》2020年 ©Yin Xiuzhen Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [6] 潘逸舟《海で考える人》2016年©Ishu Han Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [7] 奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007年 ©Yoshitomo Nara Photo: Naoya Hatakeyama
Courtesy of Hirosaki Museum of Contemporary Art
- [7] の画像提供は作家の意向により、事前に原稿を拝見させていただける場合に限りです。
- [8] ジャン＝ミシェル・オトニエル《The Knot of Eden》（Simulation from the artist studio）©Othoniel Studio

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報まで FAX またはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1